

The Voice of Mission



東スイス・アッペンツェラーランド フェーネルン

ひとりで主の前に出る

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて
寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。
マルコの福音書 1章35節

ミッション・宣教の声 主幹
黒田 禎一郎



私たちは「静思の時」の大切さを、何度も聞いています。しかし、ひとたび仕事が始まると、我を忘れ、神が私と共に歩んでくださっていることに気づかないまま、日を過ごしてしまうことがあります。そこで、「ひとりで主の前に出る」ことを今一度、見直したいと思います。

まず、イエスは自分の生活のどこに「静思の時」を持たれたのでしょうか。弟子マルコは、「**イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに**」と記録しました。イエスはあらゆる生活の場で、即座に天を仰いで父なる神に祈ることができました。しかし、あえて、夜明け前に起きだして、人のいない所へ行き、天の父なる神と2人だけの時を持たれました。前後の文脈を見ると、イエスのもとには群衆が押し寄せて来たことがわかります。イエスには、「**ひとりで主の前に出る**」ことに集中するには、他の方法がなかったようです。

それでは、私たちは生活のどこに「その時」(静思の時)を持っているのでしょうか。多忙な日常生活の中でも、できること

が1つあります。それは、その場で「主よ!」と祈る、「ワンポイント祈禱」です。それは緊急性のある場合です。大至急で主のお助けとお導き、また主から知恵をいただく必要がある場合、その場で主を見上げる「ワンポイント祈禱」は大きな助けとなります。しかし、それと「静思の時」は違います。

「静思の時」とは何者にも妨げられずに集中し、「**ひとりで主の前に出る**」ことです。それは、わずらわし世の務めや人間関係からの逃避ではありません。何か他のことをしながら、あるいは気かけながらでもありません。神との交わりにできるかぎり集中するためです。心を静め、神のみことばに傾聴することです。限りなく仕事が押し迫ってくる多忙な私たちは、生活のどこにその「静思の時」を確保するかです。私はあなたの一番大切な時間を、「静思の時」とすることをお勧めします。多忙という渦の中に入る前です。そして、その生活をリズム化(習慣化)させることです。いかがでしょうか。あなたの生活を見直してみませんか。

6月号のポストコロナ禍でのユースミニストリーの続きです。南カリフォルニアの約60ある日系教会は、日曜日に日本語の礼拝と英語の礼拝を別々に行っている教会が多くあります。そして日系教会の礼拝出席者の平均が100人を超えている教会はほとんどありません。それぞれの教会には当然アメリカ育ちの子どもたちが多く、英語が母国語になるため教会学校は英語で行われることが多いです。

日系人ミニストリー

これは南カリフォルニアで日系人のユースミニストリーに関わるようになって気づいたことですが、自分のアイデンティティに関して、様々なコンプレックスを抱えている子どもたちが非常に多いことです。両親が国際結婚していたり、日本企業の駐在員の家庭であったり、子どもたちのバックグラウンドは様々です。しかしアメリカ社会において、自分はいったい誰なのか？何人なのか？という自己認識において自信がない子どもたちが多くいます。また日本語がうまく話せないことに悩んでいたりと、友達を上手に作れない子どもたちもいます。

定期的(毎月第一土曜日)に行っている、ユース集会やオンラインのデボーション(毎週月曜)やバイブルスタディ



日本の大学生との記念撮影

(毎週金曜)を通して、そういった悩みを抱えている子どもたちが、一人でも多くキリストにあって、自分を発見し主に在る自信と励ましが与えられるように祈っています。

バイリンガルという文化を通して働かれる主

ユース集会、キャンプ、バイブルスタディはすべて英語と日本語の両方で行われています。同時通訳は日本語から英語、そしてその逆の場合もありますが、今現在通訳者として奉仕しているのは大人ではなくユースリーダー(大学生)たちです。彼らのほとんどは中高生の時に主に触れられて、自分が日系人であることには主の深いご計画があることに目が開かれたリーダーたちです。彼らは単なる通訳者ではなく、自分もメッセンジャーとして用いられているという自信と確信があります。いろいろな悩みを持ったユースたちにとって、自信をもって奉仕している大学生のユースリーダーたちは、良い霊的なお手本となっています。そして新しい世代の通訳者がユースから、徐々に出てくるようになりました。中高生たちは毎回英語と日本語の両方でメッセージを聞くことで、み言葉はより深く彼らの内側に響いていきます。ユースキャンプが終わる度に、後に英語ではなく日本語の礼拝に出席したいという中高生が少しずつ増えています。アメリカの日系教会ではいつも通訳の奉仕者を必要としていますので、彼らが将来礼拝や宣教にパウロのように、バイリンガルの賜物をもって神に仕えていくことを祈っています。

そして興味深いことですが、日系人のユースは英語が強い子どもたちも、日本語に対して強烈な憧れを持っていることです。彼らは言葉が全部理解できなくても、沢山の日本語のポップスの歌詞を憶えて歌えます。そして日本から来た同世代の留学生と会話してみたいのです。私の牧会している教会の近くにある語学学校に日本の大学から毎年8ヶ月間、短期留学生が英語を学びに来ています。そして日本人の大学生たちと教会のユースたちが友達になり、礼拝や教会のイベントに参加してくれるようになりました。アメリカの教会学校で育ったユースたちは、日本から来た大学生が全員聖書を一度も読んだことがないということに驚いていました。その中で教会のユースたちの内に、神様の愛を何とかして日本の大学生に伝えたいという想いが主から与えられました。ユースに心を開いた日本の大学生たちは、礼拝や証を素直に聞いてくれるようになりました。一人のユースは大学生が留学を終えて帰国するときに、一人一人にイラストとメッセージを書いて渡していました。大学生は涙を流してそのメッセージを受け取っていました。



ユースが日本の大学生に送った手書きのイラストとメッセージ

ユースたちのビジョン

昨年末のユースキャンプで、ヨハネの福音書6章から少年が5つのパンと2匹の魚をイエス様に捧げたところからメッセージしたところ、集会の後に数人のユースたちから「自分の持っているものは少ないけれども、もしイエス様に使ってもらえるのであれば、なんでも捧げたい」という応答がありました。彼らがこれから人生を通して捧げていくものが、主によって祝福され、多くの人たちを励まし慰めていくことに確信を持っています。近い将来南カリフォルニアのユースグループは、日本に伝道旅行に行くことを夢見ています。ユースたちは日本で小学生たちに、「イングリッシュ・バイブル・キャンプ」をしたいという思いを持っています。ユースたちが日系人というアイデンティティに、主の大きな意味とご計画があるということにますます目が開かれ、アメリカと日本での宣教にさらに大きく用いられるように祈っています。(つづく)

黒田禎一郎牧師と行く イスラエル10日間の旅

涼しくて快適な秋のイスラエル、砂漠のネゲブ平野から緑いっぱいのガリラヤまで、聖書を手にし、イエスと聖徒たちの道を訪ねる、ゆったりとした楽しい旅です。

期 間：2023年10月18日(水)～27日(金)10日間

募集人数：20人(最少催行人員15人)

旅行代金：568,000円 燃油チャージ114,000円(2023年2月現在)

申込締切：2023年7月31日(月)

団 長：黒田 禎一郎 利用航空会社：エミレーツ航空、関空発

お申込・問合せ：(株)ホーリーランドツーリストセンター

大阪市中央区北浜2-3-10 VIP 関西センター 5F

電話：06-6226-1307 ファックス：06-6226-1308 企画：ミッション・宣教の声

私たちの宣教チームがゾツィオ村に到着すると、そこにはオルガという名の老婆がいました。彼女はオカルトと関わり疲れきっていましたが、私たちとの会話後イエス・キリストに赦しを懇願しました。この村では、どこへ行ってもゲストを歓迎する正教会信者たちに会いました。彼らは毎日祈りのために教会へ行き、子どもたちは「十戒」を暗唱していました。

また彼らは私たちが無料で聖書とカレンダーを配布すると、非常に興味深く近寄ってきました。そして「世界にまだ本当のクリスチャンがいるとは、知らなかった。我々はあなたがたと今後の旅路のため祈ってあげるよ。」と言いました。



トラクトを渡して個人伝道

刑務所内での再会

私たちのチームには回心前には麻薬中毒者であったり、さまざまな罪で刑務所生活をした兄弟が数人いました。彼らが通りを歩いていると、囚人服を着た男性が雪かきをしているのに気づきました。彼らはすぐに、彼が釈放された囚人であることが分かり、その男に新約聖書とトラクトを手渡しました。そして自分たちもかつては刑務所にいたこと、神がどのように自分たちの心を変え、依存症から解放してくださったかを話しました。するとその男は自信を取り戻したかのように、目に涙を浮かべながら刑務所で自分に起こったことを語ってくれました。「刑務所では、若い女性がジャガイモの皮をむくのをよく手伝ってくれました。彼女も同じく犯罪を犯して獄にいました。彼女の顔は自分にとって、大変見覚えのあるものでした。そこで彼女の年齢と母親の名前を尋ねると、それは何と私の実娘であることが分かりました。私たちは、父と娘が刑務所に行くことになった事実を思い、一緒に抱き合い泣きました。」それから私たちはその男性に、「あなたが刑務所で実娘に会うという素晴らしい機会を与えたのは、神である。」と伝えました。続いて彼にキリストの福音を語り、一緒に祈りました。神が導かれる方法は、人には不可解です。神は素晴らしいお方です。

キャンピングカー内で
昼食をとる伝道チーム

タイガでの故障

私たちはマイルスキー村で、ある女性に会いました。彼女は子どもが障害を持って生まれたことから、夫は彼女から去って

行きました。生まれた娘は身体障害者ですが、女性は自分の困難な運命を誰のせいにもしていませんでした。私たちは彼女の態度に驚きを隠せませんでした。彼女は自分が持っているものに満足し、すべてのことについて神に感謝していました。彼女は私たちをお茶に招いてくれましたので、神について長く話をし祈ることができました。それから車を運転し出発しようとしたとき、トラックのインジェクターから、ディーゼル油が少しずつ漏れ出ていることに気づきました。この人里離れたタイガの集落では、スペアパーツを購入できる店などはありません。その時丁度、通りがかった木材輸送の大型トラックが通りかかり、運転手に声をかけました。すると彼は、「自宅のガレージ内に予備の部品があるので、使って良い。」と答えてくださり、非常に驚きました。彼の家はヤルゼボ村で、そこは私たちが向かう途中約80キロ離れたところにあります。私たちは彼の家まで無事に到着し、壊れたノズルを交換できたことに感謝しました。神がすべてをコントロールしておられ、しかも緊急事態には私たちを助けるために、いつも人を送ってくださったことを、改めて覚え感謝しました。



雪の中で車を牽引する伝道チーム

解放

シャーコヴォ村には老未亡人オルガがいました。彼女の子どもたちはすでに亡くなり、彼女の生活環境は困難になっていました。そこで彼女に神に祈ることを教え、イエス・キリストが彼女の魂の痛みを慰め、克服するのを助けてくださると伝えました。彼女はキリストの福音を聞き、私たちの助け喜んでくれました。

その時でした。夫を亡くしたばかりの隣人が入ってきました。彼女は夫がいなくなり寂しく、ぜひ夫と話したいと言いました。実際、彼女は亡くなった夫の霊を呼び出そうとしていましたが、それは罪なので私たちはやめさせました。なぜなら、彼女のもとにやって来るのは夫の霊ではなく、夫の姿をした悪魔であり、彼女の魂はその悪魔によってさらに苦しめられることになるからです。私たちは彼女に、キリストはすべての人の罪のために十字架で死なれたこと、そしてキリストだけが人間の魂に平和と安息を与えるお方であることを説明しました。私たちは彼女に、祈りによって神に赦しを求めることができると伝えると、彼女は私たちと一緒に主イエスに祈りました。苦悩する魂に自由を与えてくださった神に感謝します。

このようにして、私たちの宣教チームはシベリア・クラスノヤルスク州で、生きて働いてくださる神を体験しました。シベリアの奥地には、キリストの福音を一度も聞いたことがない人々がいます。どうぞ、お祈りください。(つづく)

この「北朝鮮からの叫び」の連載が始まり、もう5年以上の月日が経ちました。北朝鮮の兄弟姉妹たちから届いた生きた声を代筆するという奉仕は、筆者自身にとっても大きな恵みと与ってきました。私たちは誰も、それぞれの人生の岐路において、窮地に追い込まれ、どうにもならない時があります。時には、筆者自身がそのようなトンネルの中で、執筆していることがあります。毎月与えられる彼らの力ある証は、この小さき者に対して届くエールのように聞こえます。今月もこの奇跡のストーリーに出会う読者の皆様に、エールを送ってくれると信じます。



平壤での軍事パレード

生き残りを賭けて

北朝鮮中部の都市咸興で生まれたイ・ウンジョンは、科学技術を専門とする両親から受け継いだ、頭脳明晰な遺伝子を持つ娘でした。彼女は優秀な成績で高校を卒業し、党から興南にある精錬所技術管理チームに配属されました。才女であったウンジョンは、社会においても頭角を表し、女性ながら若くしてチーム長に抜擢されました。将来も有望で、光輝いていた彼女でしたが、そんな日々は長くは続きませんでした。北朝鮮の経済状況はますます悪化し、食糧配給が回らない日が次第に増えるようになりました。労働者たちは空腹であろうが、以前と変わらない労働力を強要され、不満を募らせていきました。彼らの多くは生き残りを賭け、工場内の設備品や資材等を盗み、それらを転売し、僅かながらも収入を手にするようになりました。それは幹部も例外ではなく、誰もが盗みに手を染め、互いに騙し合い、その結果、多くの工場が閉鎖に追い込まれる事態となりました。これまでは党に忠実であったウンジョンでしたが、彼女自身も生きるために変わらなければなりません。彼女はチーム長としての地位を逆手に取り、自分が管理していた金属加工設備が使用される希少価値が高い金属を横流しして高収入を得るようになり、やがては中国へ密輸するまでに至りました。

光の刺さない谷間

そんなある日「商品」を持って、国境地帯にきたウンジョンは、彼女の後を密かにつけていた者たちに襲われ、全ての物を奪われ、生命から逃れました。全てを失くし、生きる術も残されていない彼女にとって、祖国には少しの希望も見い出せませんでした。ウンジョンはそのまま中国に入り、ブローカーを通じてカンボジア経由で大韓民国への入国を実現しました。

大韓民国に一人降り立ったウンジョンは、とにかく懸命に働き、故郷に残してきた両親と兄弟に送金し、有能な彼女は仕事の傍ら勉学にも励み、大学課程まで終わらせました。そしてウンジョンは韓国男人性と結婚し、3人の子どもに恵まれ一男二女をもうけましたが、次女には先天性発達障害がありました。障害を持ち、体が弱い次女は介護が必要で、3人の子どもたちの育児や家事に一人明け暮れました。それに加えてアルコールに溺れた夫は、定職につくことなく、不動産投資に時間を費やし、経済的にも困窮

しました。ウンジョンは韓国においても、希望を見い出せず、全く光が刺さない谷間をさまよいつけるという絶望感に打ちひしがれました。

父のもとへ帰る娘

そんな時、次女が体調を崩して入院し、その病状は予断を許さない状態となりました。病床の娘のそばで、ウンジョンは我が子を失うかもしれない悲しみと、生活の苦しさから精魂も尽き果て倒れ込んでしまいました。病室の静けさの中で、力なく横たわるウンジョンに聖霊様が突如、臨んで下さいました。その時、ウンジョンは脱北途中のカンボジアで、教会に足を踏み入れたことを思い出しました。そこでイエス・キリストを信じたものの、彼女の信仰生活には漠然とした感謝しかなく、イエス様との生きた関係を築くものではありませんでした。これまでの人生において、全て自力でやってきた彼女にとっては、神御自身を必要とはしませんでした。けれども、様々な苦悶を通して神はウンジョンに、人は自分の力では何もできないことを教えられました。そして、愛しい娘が父を頼って、その懐に帰るように、イエス様は両手を広げて、彼女を待っておられました。「イエス様、私を助けて下さい!」その悲痛な叫びに応えられた天の父は、ウンジョンに会って下さり、絶望の深淵から、沈んでいく彼女を引き上げて下さいました。ウンジョンに悔い改めが起こされ、その日から彼女にとってイエス様が全てとなりました。

開かれる奇跡の扉

その後、不思議なことに次女が奇跡的に回復し、ウンジョンは日々祈りに励み、やがて夫と子どもたち全員が、イエス様と人格的に出会う御業が起きました。ウンジョンと夫は、神のために人生を捧げようと献身し、彼女は祖国北朝鮮を越え、キリストの福音が届いていない未伝地域の人々に重荷が与えられました。一家はアゼルバイジャンへと導かれ、現地で養蜂業を営みながら、自費宣教師としてその地で仕えるようになりました。夫は神学大学院で学び、地域の村ではリーダー的存在となり、成長した子どもたちもミッションスクールを卒業し、一家でキリストの使節として神の愛を伝えています。

私たちがつまづき倒れて、もう起き上がれないと感じる時、また、長いトンネルに迷い込み、もう抜け出せないと思っても、イエス様は私たちが背負い続けてくださいます。主は私たちが立ち上がらせてくださり、日々の歩みに新しい御業を成して下さいます。ウンジョンは身を持って、それを体験しました。主によってたましいが再生され、家族全員がキリストに触れられました。そしてさらに大空に羽ばたき、決して出会う筈のない民族に仕えるという、奇跡の扉が次々に開かれていきました。たとえ私たちの日常が小さなものであっても、私たちの前には、今日もその奇跡の扉は既に開かれています。

主によって人の歩みは確かにされる。主はその人の道を喜ばれる。その人は転んでも倒れ伏すことはない。主がその人の腕を支えておられるからだ。(詩篇 37:23-24)

(名前は全て仮名です 次号につづく)

World View

イラン

国際人権委員会とキリスト教出版社「アイデア」は、6月の「囚われ人」としてイランの「家の教会」指導者サキネー・M. ベーヤチャー師を上げ、世界中のキリスト者に祈りの要請をしています。彼は2020年2月、甥のネフ・ハジ・ライミ師ともう一夫婦とともに逮捕されました。そしてイラン国家安全局は家宅捜査を行い、厳しい尋問をしましたが、保証金を置いて釈放されました。しかし彼は2022年6月以来、再び刑務所に収監されました。理由は「家の教会」に参加していたこと、「シオニスト・キリスト者宣教会」との関係にありました。イランは人口約8千400万人の99%がムスリムです。どうぞ、ベーヤチャー師の速やかな釈放のためにお祈りください。

5月10日、イランの首都テヘランの裁判所はキリスト教徒2人に無罪判決を下しました。一人はサラ・アフマディ姉妹で、彼女は2020年「家の教会」を指導した罪で懲役8年の判決を受けてました。彼女の夫はパーキンソン病を患っていましたが、「家の教会」に属していた罪で懲役2年が言い渡されていきました。彼らは刑期途中で釈放されることになりましたが、その理由は不明です。オープン・ドアーズの世界迫害指数では、イランはキリスト教徒が信仰を理由に最も迫害されている国の中で、第9位にランクされています。お祈りください。



サラ・アフマディ姉妹

ブルキナファソ

オーストラリア外務省は、西アフリカのブルキナファソで、7年間囚われの身であったケネス・エリオット医療宣教師(88歳)が釈放された、と発表しました。彼は外科医として働いていたところ、2016年イスラム教過激派テロ組織アルカイダの襲撃を受け、ジョセリン夫人とともに捕えられました。彼らはブルキナファソ北部のジボにおいて、40年以上にわたりクリニックを開設し、現地の人々に無料で外科手術と治療を施し医療伝道していました。エリオット夫妻は突然の釈放に、「神とオーストラリア政府、そして自分たちのために祈り続けてくれた人々」に感謝の言葉を述べています。豪州のペニー・ウォン外相は、身代金の支払いはなかった、と語っています。エリオット師夫妻釈放の経緯についての詳細は不明です。人口約2千500万人のこの国は、ムスリムは約60%、キリスト教徒は約25%です。神に感謝しましょう。



ケネス・エリオット医療宣教師

ケニア

ケニア北部マルサビット地区のカトリック教支援団体「カリタス」のイザコ・モル会長は、「ケニア北部で壊滅的な飢餓が迫っている。」と、ドイツ・コンスタンツにあるキリスト教支援団体「ホーフツァイヘン」本部を訪問した際に述べました。彼の教区だけでも30万人以上が飢餓の危険にさらされており、ケニア北部

では約500万人が非常に危険下に置かれていると言います。団体「ホーフツァイヘン」の初代理事クラウス・スティグリッツ氏は、「地球温暖化により飲料水や家畜の放牧地はますます不足しており、それをめぐる紛争がますます増えている。」と説明しています。これから大切な資源をめぐる競争は、さらに激化していくと思われます。今、ケニアで起こっている飢餓は、人類に対する警告の一つでしょう。どうぞ、お祈りください。

ウクライナ

5月13日、ウクライナ西部の都市テルノーポリで、スイス宣教団体「リヒト・イム・オステン」の救援物資倉庫がロケット弾の攻撃を受け全焼しました。ウクライナ西部の難民への支援活動は緊急を要するため、同団体からの宣教チームが直ちに現地入りし、新たな倉庫を探しています。「リヒト・イム・オステン」は、救援センターから毎月約1千世帯に食料と衣類を供給してきました。この宣教団体のスタッフは、全員ボランティアで構成され、15のキリスト教会が協力し活動しています。

ドイツ

毎年、ペンテコステの時期には、各地で宣教大会が開かれますが、今年も各地で宣教大会や記念礼拝が開催されました。フランクフルト・レーマーベルクで開催されたペンテコステ国際礼拝には、約1千人の人々が参加しました。このペンテコステ礼拝は、パウルス教会創立記念日の祝賀行事の一環として行われました。フランクフルトとオッフェンバッハ地区の福音主義教会監督のアヒム・クネヒト師は、説教でペンテコステの物語はチームスピリットが天から注がれたと述べました。聖霊をまだ受けていなかったイエスの弟子たちは、エルサレムの密室に集まっていた。その時、聖霊が彼らに注がれ、彼らは嵐のような熱狂に包まれました。そして各地の言葉で語る異言が聞かれました。聖霊によるスピリットが、キリスト教会を誕生させ教会を強くします。今回のペンテコステ礼拝には、聖公会はじめ、イランからのキリスト教徒、フランス福音改革派会からのキリスト教徒、さらにインドネシア福音キリスト教会の人々も礼拝に参加しました。



屋外で開かれらペンテコステ礼拝

米国

ロサンゼルス近郊の台湾系キリスト教会襲撃事件から1年が経過し、犯人の台湾人デビッド・チョウ容疑者(69歳)が告発されました。彼は2022年5月15日、会堂内にいた高齢の教会員に向けて発砲しました。その際、襲撃犯を捕えようとした医師が死亡し、他に5人が負傷しました。襲撃犯の車からは台湾への憎悪を示すメモが見つかりました。被告人は死刑または終身刑に処せられると思われます。(次ページへ続きます▶)

(前ページ「米国」の続き)

米国南部バプテスト教会は、会員数が近年減少傾向にありますが、献金額は逆に増えているという発表がありました。2022年、米国最大のプロテスタント教会である南部バプテスト教会会員数は、減少したことが明らかになりました。南部バプテスト教会会員統計数によれば、2021年の会員数1千368万人から、1千322万人(-3.3%)に減少しました。この減少数は過去100年以上で最大でした。2012年の時点では、教会会員数は約1千600万人いました。また教会数は2021年の4万7,614から4万7,198に減少しました。しかしながら、教会に通う人数は5%以上も増加しました。2022年には平均して380万人以上が南部バプテスト教会の日曜礼拝に出席していました(2021年:360万人)。一方、南部バプテスト教会の献金額は約2%増加し、91億4千万ドル相当を超えたとされます。2022年の洗礼者数は前年比の15万4701人から、18万177人へ16%以上増加しましたが、それでも過去数十年の洗礼者数を大きく下回っています。大きく揺れ動くアメリカ社会は、キリスト教会の動向にもその姿が見られます。どうぞ、お祈りください。

ベトナム

① ベトナムは50年近く共産主義統治下にあります。困難な状況にもかかわらず、クリスチャン数は増加しています。バルナバス牧師(名前変更)も聖書学校で大きく貢献しています。5月18日、彼はドイツ・エアフルトで開催された「オープン・ドアーズ・ユース・デー」で、ゲストとして母国からの報告を行いました。この大会には約2千人の若者が集まりました。

ベトナム人のバルナバス牧師(66歳)は、「私たちは共産主義への備えができていなかった。」と振り返り語りました。1975年、ベトナム戦争で共産主義側が勝利を祝ったとき、彼はクリスチャンになってまだ2年でした。ベトナム南部にある唯一の聖書学校で神学を学んでいました。彼は「共産主義者は施設と多くの教会を閉鎖した。牧師たちは逃亡するか逮捕され、多くは跡形もなく消えてしまった。」と語りました。

バルナバス牧師は、「迫害はキリスト教徒の間に衝撃を引き

起こした。教会の活動も約10年間は、実質的に停止状態であった。」と語りました。しかし1988年から、国内のキリスト教徒は再びゆっくりと活動的になってきたと、バルナバス牧師は回想しています。当時彼は31歳で、よく訓練された新しいリーダーが必要であると痛感していました。彼自身は独学で聖書を学び、伝道者として教会設立者として国内を旅していました。

② ジングルの中にある聖書学校

1990年、彼は聖書を学びたいという神学生のために、密かに少人数のクラスを作り始めました。それは注目を集めないように、ジャングルか人里離れた農場で集まりました。最初はわずか16人の学生でしたが、今では8千800人以上が、国際宣教団体「オープン・ドアーズ」の支援でプログラムを修了しました。彼らは各地で教会をリードしています。バルナバス牧師は「私たちはキリストの教えにならない行動します。」と語っています。学生たちは学んだことを、直ちに実践する必要があります。授業は1週間開かれ、その後3～4週間の実習が続きます。

今日に至るまで、聖書学校の案内はセキュリティ上の理由から口コミで広まっています。国内の一部地域では、キリスト教徒への圧力が過去数十年でいくらか緩和されましたが、それはベトナム全土に当てはまるわけでは決してありません。ベトナムでは、キリスト教徒は非愛国者で政府に批判的であるとみなされています。私たちは常に監視され、検閲され、また差別を受けています。



集会の様子
(安全上の理由から場所は非公表)

③ 信仰のために犠牲を払う

ベトナム国民の大部分は、今の政治計画に失望しています。聖書は、永遠に続く王国はないと教えていますが、ベトナム人キリスト教徒に自由への備えができていのかどうか懸念しています。自由という誘惑は内側から襲いかかるもので、クリスチャンにとっては危険です。そこでバルナバス牧師は、物質的豊かさに心奪われることがないように、聖書研究を重視し聖徒を霊的に活性化させることを目標としています。人口約9千万人のこの国の教会と人々のため、お祈りください。

編集後記

- 「線状降水帯」という耳慣れない語が聞かれ被害が出ていますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。被災地の皆様にはお見舞い申し上げます。私たちの小さな働きを祈りお支えくださり、感謝申し上げます。
- 数年続いたコロナ禍は、「ポストコロナ禍」にシフトしました。海外邦人宣教も「ポストコロナ禍でのミニストリー」が前進中です。今号も素晴らしいレポートを書いてくださった市川祥牧師に感謝します。
- ウクライナ、ミャンマー、アフリカ・スーダン情勢など、緊迫した状態は続き「とりなしの祈り」が必要です。今号も機関誌をお届けできる幸いを感謝します。主の祝福がありますように。感謝。



ミッション・宣教の声
The Voice of Mission

発行人 黒田禎一郎
年間購読料 ¥2,500(送料込)
1981年12月初版発行(毎月1回1日発行)

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10 VIP 関西センター 5F
TEL 06-6226-1334 FAX 06-6226-1336
E-mail senkyo@vomj.jp URL http://vomj.jp/

The Voice of Mission
MUFU Bank, Ltd. Sakaihigashi Branch
Bank account No.3623132 SWIFT CODE : BOTKJPJT



■郵便振替口座 00940-3-301623
■銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店(店番205)
普通口座 3623132 「ミッション宣教の声」

Bank Address : 59-2 Mikunigaoka-Miyukidoori, Sakai-ku,
Sakai-shi, Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL:81-72-221-3041